

II. クロス集計

1. レジリエンス (Q13) が強い・弱いタイプの特徴は何か? (全体平均 50.3)
 - ・ Q6-Q5 同居人数の増減：同居人数が減った方 (-1 人 48.6、-2 人 46.6) はレジリエンス弱い
 - ・ Q7-3 震災前住まいの状況：全壊 (45.8) はレジリエンス弱い
 - ・ Q7-4 震災後経験したもの：何らかの避難 (避難所 45.7、車中避難 46.2、仮設住宅 47.5、みなし仮設 43.1) をした方はレジリエンス弱い
 - ・ Q7-5 転居回数：転居経験が増えるほど (3 回 43.4、4 回 48.5、5 回 34.8、6 回以上 42.5) レジリエンス弱い
 - ・ Q7-8 今の住居での目途：目途が立っていない (全く (39.9)、あまり (44.3)) 方はレジリエンス弱い
 - ・ Q8-1,2 震災前・現在の相談相手：いずれも相談相手がいない (35.2、34.4) とレジリエンス弱い
 - ・ Q9-1 子供との関わり方：控えめ型 (43.7) がレジリエンス弱い
 - ・ Q10 満足度 (不満度)：現在不満足 (41.8) の方がレジリエンス弱い
 - ・ Q11 活動量変化：活動減 (43.8)・普通 (47.2) はレジリエンス弱い
 - ・ Q18 障害程度：知的最重度 (46.3) はレジリエンス弱い
2. ストレスの高まり (Q12) に何が影響しているか?
 - ・ Q1 回答者年代：50 代が高い
 - ・ Q7-4 震災後経験したもの：何らかの避難 (避難所、車中避難、仮設住宅、みなし仮設) をした方はストレス高い
 - ・ Q7-5 転居回数：転居経験が増えるほどストレス高い
 - ・ Q7-8 今の住居での目途：目途が立っていない (全く、あまり) 方はストレス高い
 - ・ Q8-1,2 震災前・現在の相談相手：いずれも相談相手がいないとストレス高い
 - ・ Q9-1 子供との関わり方：控えめ型がストレス高い
 - ・ Q10 満足度 (不満度)：現在不満足の方がストレス高い
 - ・ Q11 活動量変化：活動減はストレス高い
 - ・ Q13 レジリエンス尺度：レジリエンス弱い方はストレス強い
 - ・ Q14 パニックになる等の行動をした人：1 人以上の方はストレス高い (特に震災直後～2・3 ヶ月)
 - ・ Q20 障害のある子どもの状況変化：ありの方はストレス強い
3. 震災後に支援の仕方が変わる層がある。きっかけは何か?
 - ・ Q16 子供の年齢：10 代未満、10 代は利用サービスが増えている
 - ・ Q18 障害の程度：身体最重度の方は利用サービスが増えている
 - ・ Q18 自閉症：自閉症・広汎性発達障害の方は利用サービスが増えている

以上

<ご参考：所感>

- ・ 要支援の判断は現在の不満足度（Q10）を計測すればよいのではないか？
→不満足度（Q10）、活動量（Q11）、ストレス状況（Q12）の3つに相関があると言える。一番把握しやすいのは不満足度調査か？
- ・ レジリエンス尺度（Q13）といった人の持つ性質より、環境要因の影響がストレスに強く寄与すると思われる。
- ・ 特に大きな環境要因は「住まい」であり、そこが安定する／しない所が大きな分岐点となる
- ・ 次いで「子供の年齢」である。要するに小学校に入る6歳、高等部に入る15歳、日中活動に入る18歳といった、支援の変わるタイミングでの情報提供や相談支援による安心感が重要である。
- ・ あとは、適切な相談相手がいるかどうか、が大きな点。育成会や福祉職員がもらさずフォローできるかどうかのポイント。
- ・ 注意すべき子供との関わり方は「控えめ型」の方。
- ・ 特に原発避難の方はレジリエンス低く、ストレスも強く感じていることが顕著にわかった。

<追加> 県別傾向

- ・ Q1 回答者年代：福島県は若い年齢層による回答
- ・ Q4 現在の仕事：福島県は働いている方が多い（Q1と連動）
- ・ Q5 同居人数：福島県は同居人数が少ない
- ・ Q5-Q6 同居人数の増減：岩手県は減少が4割近く
- ・ Q7-3 住まいの状況：岩手は被害なしが多い
- ・ Q7-4 震災後経験：福島が多く、特に自主避難が多い
- ・ Q7-5 転居回数：福島が多く1回以上が約半数近く
- ・ Q7-7 現在の住まい：福島が4割近く今までと違う住まい
- ・ Q7-8 住居の目途：福島が4割近く目途が立っていない
- ・ Q8-2 現在相談相手：福島が「いない」が微増
- ・ Q11 活動量：岩手が活動量減っている
- ・ Q12 ストレス尺度：宮城が弱い方が多い（半数以上）
- ・ Q13 レジリエンス：福島が高い
- ・ Q16 子供年代：福島が若い（Q1と連動）
- ・ Q18 障害特性：福島が中軽度多い（配布対象者に依存）
- ・ Q19-1 同居状況：岩手が別居多い（4割近く）
- ・ Q14 パニック行動（～半年）：岩手が多い（おそらく、重度の方が多いため）

別添2 アンケート調査票

I あなたご自身のことについてお聞きします。

下線の部分に記入、または当てはまるものに○をつけて下さい。

Q 1) 年齢は _____ 歳 Q 2) 性別は 男 ・ 女

Q 3) 障害のあるお子さんにとって、あなたは 父 ・ 母 にあたる

Q 4) あなたは現在、仕事をしていますか。あてはまるものに○をつけて下さい。

a. 民間の正規従業員	b. 臨時雇用(派遣、パート・アルバイト)
c. 自営業(商店主、工場主、漁師など)	d. 常勤の公務員
e. 無職	f. その他()

Q 5) 現在、同居している人数は _____ 人

現在同居している方の状況について教えてください。

あなたとの 続柄 (例：夫、次 女、孫など)	年齢	性別	現在の職業
			a. 民間の正規従業員 b. 臨時雇用 c. 自営業 d. 常勤の公務員 e. 無職 f. 福祉施設利用 g. その他
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()

Q 6) 震災直前に、同居していた人数は _____ 人

その時に同居していた方の状況について教えてください。

あなたとの 続柄 (例：夫、次 女、孫など)	当時 の 年齢	性別	当時の職業
			a. 民間の正規従業員 b. 臨時雇用 c. 自営業 d. 常勤の公務員 e. 無職 f. 福祉施設利用 g. その他
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()
		男・女	a. b. c. d. e. f. g()

Q 7-1) 震災前の居住地はどこでしたか _____ 県 _____ 市・町・村

-2) 震災前のあなたのお住まいは、次のどれにあたりましたか

- | | | |
|-------------------------|-------------|------------------|
| a. 持家(一戸建て) | b. 持家(集合住宅) | c. 民間の賃貸住宅(一戸建て) |
| d. 民間の賃貸住宅(集合住宅・アパート) | e. 社宅・官舎・寮 | |
| f. 公的な賃貸住宅(公営住宅・雇用促進住宅) | g. その他() | |

-3) 震災前のお住まいの被害状況は、次のどれにあたりますか

- | | | | | |
|-------|----------|-------|---------|------------|
| a. 全壊 | b. 大規模半壊 | c. 半壊 | d. 一部損壊 | e. 被害はなかった |
|-------|----------|-------|---------|------------|

-4) 震災後、次の中で経験したもののすべてに○を付けてください。

- | | | | | |
|------------|-----------|---------|----------|---------|
| a. 避難所 | b. 車中避難 | c. 仮設住宅 | d. みなし仮設 | e. 自主避難 |
| f. 避難しなかった | g. その他() | | | |

-5) この3年間で何回転居しましたか 合計 _____ 回(避難所・仮設を含む)

-6) 現在の居住地はどこですか _____ 県 _____ 市・町・村

-7) 現在の住居形態は、次のどれにあたりますか

- | | | |
|-------------|-----------|----------------|
| a. 仮設住宅 | b. 賃貸住宅 | c. 借り上げ・雇用促進住宅 |
| d. 親戚・知人宅 | e. 再建した自宅 | f. 震災前からの自宅 |
| g. その他(具体的に | |) |

-8) 今の住居で、どう暮らしていったら良いか、めどは立っていますか。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| a. 全く立っていない | b. あまり立っていない | c. やや立っている |
| d. 立っている | e. その他() | |

Q 8-1) 震災前、何でも親身に相談できる人がいましたか(アまたはイに○)。

ア) いなかった

イ) いた→それは誰ですか。下記の中から○をつけて下さい(いくつでも)

- | | | | | |
|-----------------|-----------|-------------------|-------|------------|
| a. 家族 | b. 親戚 | c. 職場の人 | d. 友人 | e. 障害者の親の会 |
| f. 子どもの父母会(PTA) | g. 宗教 | h. 自治会や婦人会などの地域活動 | | |
| i. 漁協などの組合 | j. 趣味の集まり | k. 福祉施設の職員 | | |
| l. ボランティア | m. その他() | | | |

-2) 現在、何でも親身に相談できる人がいますか(アまたはイに○)。

ア) いない

イ) いる→それは誰ですか。下記の中から○をつけて下さい(いくつでも)

- | | | | | |
|-----------------|-----------|-------------------|-------|------------|
| a. 家族 | b. 親戚 | c. 職場の人 | d. 友人 | e. 障害者の親の会 |
| f. 子どもの父母会(PTA) | g. 宗教 | h. 自治会や婦人会などの地域活動 | | |
| i. 漁協などの組合 | j. 趣味の集まり | k. 福祉施設の職員 | | |
| l. ボランティア | m. その他() | | | |

Q 9-1) 以下のそれぞれの項目について、現在のあなたの特徴に最もあてはまる数字を一つだけ○で囲んで下さい。

0 = 全く違う 2 = まあそうだ	1 = いくらかそうだ 3 = その通りだ	全く違 う	いくら かそう だ	まあ そうだ	その 通りだ
1. 自分のやりたいことをしている時より、障害のある子どもの世話をしている時の方が、充実した気持ちになる	0	1	2	3	
2. 障害のある子どもの世話をしていないと不安になる	0	1	2	3	
3. 障害のある子どもが自分でできることでも、待たずに手助けしたりやってしまうことが多い	0	1	2	3	
4. 障害のある子どもの問題行動を自分の責任だと思ってしまうことが多い	0	1	2	3	
5. 障害のある子どもが誰かから何か質問された時、代わりに答えることが多い	0	1	2	3	
6. 障害のある子どもを思い通りにしようとしている	0	1	2	3	
7. 障害のある子どもの行動が気に入らないと、その子にあたってしまう	0	1	2	3	
8. 子どもに障害があることを自分のせいだと思って自分を責めてしまう	0	1	2	3	
9. 障害のある子どもが何かにこだわった時、いつもそのこだわりを受け入れてしまう	0	1	2	3	
10. 障害のある子どもの感情の起伏を気にしてびくびくしている	0	1	2	3	
11. きちょうめんだ	0	1	2	3	
12. 家事や仕事をきちんと予定通りこなしたい	0	1	2	3	
13. 小さな失敗をいつまでも気にしてしまう	0	1	2	3	
14. 自分でどうしようもない状況にあうと困ってしまい、嫌な気分がいつまでも続く	0	1	2	3	
15. 世間体や他人の目がいつも気になる	0	1	2	3	
16. 自分のことが嫌になったり、自分にいらつくことがよくある	0	1	2	3	
17. 自分の考えていることに対して、まわりの人の賛成が得られないと行動にうつせない	0	1	2	3	

-2) 前ページ(Q9-1)の状態は、震災前と同じですか (a または b に○)。

a. 同じである

b. 違う →どのように違っていますか。具体的に教えてください。

Q10) あなたは次に挙げた事柄について、現在、どの程度満足していますか。あてはまるところに1つだけ○をつけて下さい。

0 = たいへん満足 2 = 少し不満	1 = 少し満足 3 = たいへん不満	たい へん 満 足	少 し 満 足	少 し 不 満	たい へん 不 満
1) 現在の住まいについて		0	1	2	3
2) 毎日の暮らしについて		0	1	2	3
3) 自分の健康について		0	1	2	3
4) 今の人間関係について		0	1	2	3
5) 今の家計の状態について		0	1	2	3
6) 今の家庭生活について		0	1	2	3
7) 自分の仕事について		0	1	2	3
8) 障害のある子どもの状態について		0	1	2	3

Q11) 震災前と比べて、次のことが増えましたか？減りましたか？当てはまるところに1つだけ○をつけて下さい。

0 = かなり減った 2 = 少し増えた	1 = 少し減った 3 = かなり増えた	か な り 減 っ た	少 し 減 っ た	少 し 増 え た	か な り 増 え た
1) 仕事の量は		0	1	2	3
2) 忙しく活動的な生活を送ることは		0	1	2	3
3) 自分のしていることに生きがいを感じることは		0	1	2	3
4) まわりの人々とうまくつきあっていくことは		0	1	2	3
5) 日常生活を楽しく送ることは		0	1	2	3
6) 自分の将来は明るいと感じることは		0	1	2	3
7) 元気ではつらつとしていることは		0	1	2	3

Q12) 以下にあげる項目は、あなたのここ2,3日の気持ちや行動の状態にどれくらいあてはまりますか。最もあてはまる数字を一つだけ○で囲んで下さい。

0 = 全く違う、 2 = まあそうだ、3 = その通りだ	全く違う	いづらか そうだ	まあ そうだ	その 通りだ
1. 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2. 悲しい気分だ	0	1	2	3
3. 何となく心配だ	0	1	2	3
4. 怒りを感じる	0	1	2	3
5. 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6. 感情を抑えられない	0	1	2	3
7. くやしい思いがする	0	1	2	3
8. 不愉快だ	0	1	2	3
9. 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10. いらいらする	0	1	2	3
11. いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12. 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13. よくないことを考える	0	1	2	3
14. 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15. なぐさめて欲しい	0	1	2	3
16. 根気がない	0	1	2	3
17. ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18. 何かに集中できない	0	1	2	3

Q13) 次の説明を読んで、この1ヶ月の自分にどの程度当てはまると思われるのかを答えて下さい。各項目で最も当てはまると思われる回答の番号に○をつけて下さい。(そのような状況がなかった場合は、あったと仮定して答えて下さい)

0 = まったく当てはまらない 1 = ほとんど当てはまらない 2 = ときどき当てはまる 3 = しばしば当てはまる 4 = ほとんどいつも当てはまる	は ま っ た く あ て は ま ら な い	は ま ら な い 当 て	ほ と ん ど 当 て	と き ど き 当 て	し ば し ば 当 て	ほ と ん ど い つ も 当 て は ま る
1. 変化に適応することができる	0	1	2	3	4	
2. ストレスがあるときに私を助けてくれるような、親しくて安心できる人が一人以上いる	0	1	2	3	4	
3. 自分の問題に明確な解決方法がない時、運命や神様が助けてくれることがある	0	1	2	3	4	
4. 自分の行く手にどんなことが起っても対応できる	0	1	2	3	4	
5. 過去の成功が、私に新たな試練や困難に対応できるという自信を与えてくれる	0	1	2	3	4	

0 = まったく当てはまらない 1 = ほとんど当てはまらない 2 = ときどき当てはまる 3 = しばしば当てはまる 4 = ほとんどいつも当てはまる	は ま ら な い	ま つ た く 当 て	は ま ら な い	ほ と ん ど 当 て	と き ど き 当 て	は ま る	し ば し ば 当 て	も 当 て は ま る	ほ と ん ど い つ
6. 問題に直面したときでも、ものごとのユーモアのある面を見るようにしている	0	1	2	3	4				
7. ストレスに対処することで私は強くなれる	0	1	2	3	4				
8. 病気やけがなどの苦しい目にあっても、その後で元気を取り戻すほうだ	0	1	2	3	4				
9. よいことでも悪いことでも、ほとんどの物事には意味があって起こるのだと信じている	0	1	2	3	4				
10. 結果がどうなろうと最善を尽くす	0	1	2	3	4				
11. たとえ困難なことがあっても、自分の目標に到達できると信じている	0	1	2	3	4				
12. たとえ絶望的に思えても、私はあきらめない	0	1	2	3	4				
13. ストレスや危機の中でも、どこに助けをもとめればよいか分かっている	0	1	2	3	4				
14. プレッシャーがかかっているときでも、集中力を失わず、はっきりと考える	0	1	2	3	4				
15. すべての決定を他者に委ねるよりも、率先して問題を解決する方を選ぶ	0	1	2	3	4				
16. 失敗しても簡単には気持ちがくじけない	0	1	2	3	4				
17. 人生の試練や困難に取り組む際に、自分自身を強い人間だと思う	0	1	2	3	4				
18. 必要であれば、嫌がられたり難しいことであっても、人を動かす決断をすることができる	0	1	2	3	4				
19. 悲しみや恐怖、怒りなどの、不快で苦しい感情にも、対応することができる	0	1	2	3	4				
20. 人生の問題に対処するときに、なぜかがわからないままに、直感によって行動しなければならないことがある	0	1	2	3	4				
21. 人生に目標があると強く感じる	0	1	2	3	4				
22. 自分の人生をコントロールできていると感じている	0	1	2	3	4				
23. 挑戦が好きだ	0	1	2	3	4				
24. 途中でどのような障害があっても、自分の目標を達成するために頑張る	0	1	2	3	4				
25. 自分のやりとげたことに誇りを持っている	0	1	2	3	4				

注) この尺度は著作権者の許可を得て使用しています。無断で使用・複製・譲渡することはできません。

Q14) 家族の中で、次の期間に、震災関連の場所を嫌がる・震災関連のことを見聞きするとパニックになる等の行動をした人が何人いますか

震災直後～2,3か月	震災後半年～1年目	最近の半年間
人	人	人

Q15) 震災後、あなたが何に困ったか、その時どういうサービス・支援が欲しかったかを具体的に教えてください（時期区分にご留意ください）。

	震災後～1ヵ月まで	1ヵ月後～1年まで	それ以降～現在
あなたが 何に困ったか			
どういサービス・支援が ほしかったか			

Ⅲ 障害のあるお子さんについてお聞きします。

下線の部分に記入、または当てはまるものに○をつけて下さい。

* 障害のあるお子さんが2人以上いらっしゃる場合には、一番年長の方について以下に記入し、2人目以降の方については別紙に記入してください。

Q16) 障害のある子どもの年齢は _____ 歳 Q17) 性別は 男 ・ 女

Q18) 障害の種類と程度についてお聞きします（あてはまるものすべてに○）

知的障害は： a. 無し b. 有り ⇒ 障害程度は： 軽度・中度・重度・最重度

てんかんは： a. 無し b. 有り

精神障害は： a. 無し b. 有り ⇒ 障害程度は： 軽度・中度・重度・最重度

身体障害は： a. 無し b. 有り ⇒ 障害程度は： 軽度・中度・重度・最重度

自閉症関連の障害がある場合、

次の中からもっとも近いと思われる診断名に○をつけて下さい。複数回答可

自閉症 高機能自閉症 アスペルガー症候群
 自閉症スペクトラム障害 広汎性発達障害

その他の障害 a. 無し b. 有り ⇒ 具体的に（ _____ ）

障害程度は： 軽度・中度・重度・最重度

Q19-1) 現在、障害のある子どもと同居していますか a. はい b. いいえ

→ いいえ（別居）の場合、障害のある子どもはどこに住んでいますか

a. グループホーム・ケアホーム b. 入所施設 c. その他（ _____ ）

-2) 震災前、障害のある子どもと同居していましたか a. はい b. いいえ

→ いいえ（別居）の場合、障害のある子どもはどこに住んでいましたか

a. グループホーム・ケアホーム b. 入所施設 c. その他（ _____ ）

Q20) 障害のある子どもの状態の変化について教えてください。時期ごとに、当てはまるものに○をつけて下さい。

	震災直後 ～2, 3ヵ月	震災後半年 ～1年目	最近の 半年間
1) 親と一緒にいたがる			
2) 被災した場所に行きたがらない			
3) 地震を恐がる			
4) イライラしやすい			
5) 落ち着きがなくなった			
6) 睡眠の問題が生じた			
7) 今まで出来ていたことが出来なくなった			

Q21) 障害のある子どもの、現在の状態であてはまるものに○をつけてください

- | | | | |
|-------------|---------------|----------------|------------|
| a. 多動である | b. 自傷/他害がある | c. 奇声を発する | d. 睡眠障害がある |
| e. 過食/拒食がある | f. 食事が全面介助である | g. トイレが全面介助である | |

Q22) 障害のある子どもとのコミュニケーション方法は、どのようなものですか

- | | |
|-------------------|--------------------|
| a. 言葉で十分意思疎通できる | b. 単語・カタコトで意思疎通できる |
| c. 独り言やオウム返しのみである | d. 全く話さない |

Q23-1) 震災前は、どのような福祉サービスを使っていましたか。

-2) その福祉サービス提供者の被災状況はどのようなものでしたか。

Q24) 現在、どのような福祉サービスを使っていますか

Q25) 震災を経験して、他の方に伝えたいことを自由にお書きください。

一人目のお子さんについての記入は以上です。
ご協力どうも有り難うございました。
(2人目以降の方については、別紙にご記入下さい)

Q31) 障害のある子どもの、現在の状態であてはまるものに○をつけてください

- | | | | |
|-------------|---------------|----------------|------------|
| a. 多動である | b. 自傷/他害がある | c. 奇声を発する | d. 睡眠障害がある |
| e. 過食/拒食がある | f. 食事が全面介助である | g. トイレが全面介助である | |

Q32) 障害のある子どもとのコミュニケーション方法は、どのようなものですか

- | | |
|-------------------|--------------------|
| a. 言葉で十分意思疎通できる | b. 単語・カタコトで意思疎通できる |
| c. 独り言やオウム返しのみである | d. 全く話さない |

Q33-1) 震災前は、どのような福祉サービスを使っていましたか。

-2) その福祉サービス提供者の被災状況はどのようなものでしたか。

Q34) 現在、どのような福祉サービスを使っていますか

2人目のお子さんについての質問は、以上で終わりです。
ご協力どうも有り難うございました。

Q40) 障害のある子どもの、現在の状態であてはまるものに○をつけてください

- | | | | |
|-------------|---------------|----------------|------------|
| a. 多動である | b. 自傷/他害がある | c. 奇声を発する | d. 睡眠障害がある |
| e. 過食/拒食がある | f. 食事が全面介助である | g. トイレが全面介助である | |

Q41) 障害のある子どもとのコミュニケーション方法は、どのようなものですか

- | | |
|-------------------|--------------------|
| a. 言葉で十分意思疎通できる | b. 単語・カタコトで意思疎通できる |
| c. 独り言やオウム返しのみである | d. 全く話さない |

Q42-1) 震災前は、どのような福祉サービスを使っていましたか。

-2) その福祉サービス提供者の被災状況はどのようなものでしたか。

Q43) 現在、どのような福祉サービスを使っていますか

3人目のお子さんについての質問は、以上で終わりです。
ご協力どうも有り難うございました。

II. 厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

分担研究報告書

3. 障害福祉施設における災害対応力向上策に関する研究

研究分担者 柄谷 友香（名城大学大学院都市情報学研究所）

研究協力者 鍵屋 一（跡見学園女子大学観光コミュニティ学部）

研究要旨

本研究の目的は、災害現場の経験から教訓を紡ぐヒアリング調査及びワークショップ研修などの一連の作業を通じて、将来同じような立場になり得る障害福祉施設の防災計画・マニュアルの「具体性」、「十分性」、「仕組み」を充実させた事業継続の視点を盛り込むことである。また、本研究の成果を含めて、知的・発達障害福祉施設における事業継続計画（BCP）策定及びそのプロセスを通じた職員研修教材を汎用性あるパッケージとして提供することである。

主な成果は、まず、東日本大震災後の知的・発達障害福祉施設での災害対応および事業継続に関するヒアリングデータを内容分析し、入所・通所・相談支援業務など障害福祉施設種別にみた災害対応の困難とその対応・対処を抽出し、今後のBCPにおいて盛り込むべき内容の優先順位を検討した。また、施設種別ごとに抽出頻度の高い内容については、震災経験のない障害福祉施設関係者のイメージ力向上させるエピソード集・教材として整理した。さらに、東北3県をはじめ、横浜市、名古屋市、世田谷区、江東区、練馬区などの障害福祉施設を対象として、こうした教材を用いた事業継続計画策定のためのワークショップを実施し、得られた知見を踏まえて、研修プログラム（4時間バージョン）を開発し、さらに繰り返し実施し、参加者アンケート調査結果を踏まえたブラッシュアップを継続してきた。

以上の知見に基づき、障害福祉施設固有の対応項目や課題を踏まえた「消防計画から事業継続計画（BCP）へのステップアップガイド」を作成した。本ステップアップガイドは、基本方針、初動対応、「事業を通常通り継続できるか」の判断と対応、全員移動、大災害対応、BCPの運用管理、関連情報・リストの7つの大項目30頁から構成される。障害福祉施設職員による活用・普及に向けた特徴として、従来策定済みの消防計画の内容を移行しながら、本説明冊子のステップに沿って、ヒントや例示を参照に書き込んでいける点が挙げられる。また、前述の事業継続計画策定のためのワークショップを受講することにより、災害対応イメージとBCP策定の意義、ステップガイドの活用までを習得することができ、各施設のBCP策定を担える人材の育成につながる一連のプログラムとして構成した。

1. 研究目的

本研究の目的は、災害現場の経験から教訓を紡ぐヒアリング調査及びワークショップ研修などの一連の作業を通じて、将来同じような立場になり得る障害福祉施設の防災計画・マニュアルの「具体性」、「十分性」、「仕組み」を充実させた事業継続の視点を盛り込むことである。また、本研究の成果を含めて、知的・発達障害福祉施設における事業継続計画（BCP）策定及びそのプロセスを通じた職員研修教材を汎用性あるパッケージとして提供することである。

具体的には、まず、東日本大震災後の知的・発達障害福祉施設での災害対応および事業継続に関するヒアリングデータを内容分析し、入所・通所・相談支援業務など障害福祉施設種別にみた災害対応の困難とその対応・対処を抽出し、今後のBCPにおいて盛り込むべき内容の優先順位を検討した。また、施設種別ごとに抽出頻度の高い内容については、震災経験のない障害福祉施設関係者のイメージネーション力を向上させるエピソード集・教材として整理した。さらに、東北3県をはじめ、横浜市、名古屋市、世田谷区、江東区、練馬区などの障害福祉施設を対象として、こうした教材を用いた事業継続計画策定のためのワークショップを実施し、得られた知見を踏まえて、研修プログラム（3時間バージョン）を開発し、さらに繰り返し実施し、参加者アンケート調査結果を踏まえたブラッシュアップを継続してきた。

以上の知見に基づき、障害福祉施設固

有の対応項目や課題を踏まえた「消防計画から事業継続計画（BCP）へのステップアップガイド」を作成した。本ステップアップガイドは、基本方針、初動対応、「事業を通常通り継続できるか」の判断と対応、全員移動、大災害対応、BCPの運用管理、関連情報・リストの7つの大項目30頁から構成される。障害福祉施設職員による活用・普及に向けた特徴として、従来策定済みの消防計画の内容を移行しながら、本説明冊子のステップに沿って、ヒントや例示を参照に書き込んでいける点が挙げられる。また、前述の事業継続計画策定のためのワークショップを受講することにより、災害対応イメージとBCP策定の意義、ステップガイドの活用までを習得することができ、各施設のBCP策定を担える人材の育成につながる一連のプログラムとして構成した。

2. 障害福祉施設種別にみた災害対応の実態と課題—現場ヒアリング調査に基づく内容分析—

2.1 現場のイメージ共有のための教材の作成—内容分析のためのデータ—

2.1.1 研究の方法

災害対応現場では、初めて遭遇した状況下でも最善を尽くすことが求められる厳しい実状がある。災害対応者に求められる素養として「次に何が起こるのか？」を予測できることが重要であり、そのためには「事前に災害プロセスを理解する／追体験しておく」ことが有効である。しかしながら、自然災害は規模が大きくなる程、その発生頻度は低くなることか

ら、過去の災害を乗り越えてきた先人の経験と知恵を共有し、そこから効果的な災害対応を行うためのノウハウを学ぶことが1つの有効な方法である。特に、災害の発生状況によって異なる対応を迫られることから、正解（あるべき・すべき論）を出すことは困難であり、過去の災害事例を元にシミュレーションしておくことは「正解のない問いを解くための問題解決能力」を高めることが期待される^{1),2)}。

本研究では、障害福祉施設における災害対応事例を収集・分析するために、東北沿岸部に位置し、東日本大震災により被害を受けた入所、通所、相談支援事業の3つの異なる機能を有する障害福祉施設7件を対象として、ヒアリング調査を実施した。なお、対象施設の機能内訳は、入所施設（施設入所支援、短期入所を含む）2件、通所施設（日中一時支援、就労移行支援を含む）3件、相談支援事業（障害児等療育支援事業を含む）2件であり、いずれも東日本大震災当時に現場で陣頭指揮に当たった施設長および管理者などの関係各位を対象とした。

ヒアリング方法は、1件あたり約2時間の2～4名のグループインタビューとし、構造化されないオープンインタビュー形式を採用した。共通する問いは、発災当日から概ねの時間経過に即して各自の対応や経験を語ってもらい、事実関係のみならず、特に苦勞した点や迷った判断、それをどのように乗り切ったのか／乗り切れなかったのかを含めて話してもらった。

また、このインタビュー内容をトラン

スクリプト化（テープ起こし文書）し、災害現場をイメージできる2種類の教材化を試みた。1つには、災害対応上の教訓として残すべき内容の抽出を防災分野に精通する2名で行い、約32,000字（A4×32枚）を研修の一定時間で読み解ける約4,000字（A4×4枚）に要約した。なお、教材には、話し手の言葉やセンテンスをそのまま残し、読み手に話し手の文脈や現場の臨場感が伝わるように工夫した。2つには、次章に示すように、障害施設種別により異なるエピソードをBerelsonの内容分析により抽出し、現場で発生しうる状況を「問い」として提示することにより、「当施設だったら／私だったら」に置き換え、事前の対策や備えにつなげるものである^{3),4)}。

2.1.2 研究結果及び考察

本研究で対象とした障害福祉施設7件（入所2件、通所3件、相談支援2件）のグループインタビュー（約32,000字）をトランスクリプト化し、災害対応上の教訓として残すべき内容を抽出した（約4,000字）。表1には、章構成を示す。

2.2 Berelsonの内容分析法に基づく障害福祉施設種別にみた災害対応課題の抽出

2.2.1 研究の方法

知的・発達障害児者のための施設は、その目的に応じた機能や設備を有している。例えば、入所施設であれば、利用者の入浴や就寝のための設備があり、一定期間分の食料や薬の管理もされている。一方、就労支援などの通所施設では、短

表 1 教材(読み物)の章構成

No.	施設種類	教材(読み物)の章構成
1	入所	①発災直後の利用者対応 ②発災当日:利用者50名+地域住民300名の避難対応 ③災害対応における職員の安心確保の大切さ ④利用者のための生活空間の確保—一般避難者とのルールの徹底 ⑤発災から1ヶ月間:食事、入浴、洗濯、医療、できる限りの対応 ⑥発災1ヶ月から一般避難所の閉所:4ヶ月間の利用者の我慢が支えた一般避難者 ⑦法人の理念:地域福祉の役割を果たす
2	入所	①発災当日の対応 ②発災後2日目:まずは、職員家族の安否確認 ③発災後3日間:ライフライン不通の中での利用者対応 ④利用者家族の安否確認と個人情報保護法の弊害 ⑤発災1週間~:外部支援者受け入れの難しさと地域に残された課題
3	通所	①発災当日の避難対応 ②発災後2~3日から3週間:利用者家族の避難対応と避難所指定の申請 ③震災による利用状況の変化 ④利用者とその家族からの事業所再開ニーズ ⑤震災後の改善点:処方箋の管理と連絡先把握の徹底
4	通所	①発災当日の避難対応—亡くなられた2名の利用者— ②発災から一週間:地域や学校の協力による体育館避難 ③家族の協力による利用者の帰宅 ④発災後の利用者家族の対応 ⑤家族からみた障害者の避難所利用 ⑥親から見た「障害者にとっての震災」とは ⑦家族の協力による「プレハブ事業所の自力再開」—利用者とその家族の施設ニーズ ⑧住まいの移転先も「子どもの安心優先」 ⑨地元自治体と事業所の関係性と役割分担 ⑩外部支援による新たな作業の開始 ⑪事業所と地域再建までの道のりと課題—事業所と利用者家族の役割と連携—
5	通所	①発災当日の避難状況 ②発災から3日間:食べ物の確保、避難所指定の申請、利用者家族の安否確認 ③発災後3日~事業再開まで(3週間後):利用者とその家族のための事業継続 ④発災後3週間~:事業の早期再開と作業探し ⑤仮設住宅入居後の課題と支援による対応
6	相談支援	①発災後2日間の避難対応 ②震災後から約3週間:利用者の安否確認 ③障害者の避難所生活での課題と相談支援業務・障害者施設の役割 ④住まいや地域の環境変化による新たな障害者ニーズと外部支援者の役割 ⑤定住までの継続的支援・寄り添いの必要性
7	相談支援	①地域における相談支援業務の役割 ②発災当日の避難対応 ③体育館での避難状況 ④発災から1週間:利用者を地域に帰し、保健士につなぐ ⑤地域と外部支援者をつなぐ役割(コーディネーター) ⑥環境変化による新たな児童への支援ニーズと支援の活用 ⑦市町村合併による支援業務の弊害—きめ細かな支援のための地域規模

期入所機能を備えたケースを除いて、利用者の日中支援業務が主であり、宿泊設備はない場合が多く、食事や薬の管理も日中分が中心である。東日本大震災では、発生時刻が14時46分かつ超広域大規模災害であったことから、利用者を預かる施設もその家族も共に被災し、通所施設で利用者や家族と寝泊まりせざるを得ないケースもあった。また、入所施設でも重度の利用者に加えて、地域住民の受け入れを迫られるケースもあった。

また、これまでのワークショップにおいて、利用者の障害度や種別に加えて、障害施設の機能により BCP の検討項目

が異なるという知見も得られている。

以上のことから、障害福祉施設種別にみた災害対応上の課題やその対応・対処の違いについて検討するに至った。

1. で得られた障害福祉施設における東日本大震災への対応実態に関する質的データの内容を Berelson の内容分析法³⁾に基づき、意味内容の類似性ごとに分類した。具体的には、①意味内容の類似する文節(文章のまとまり)を区切り、一覧表にする、②記録単位の決定(記述内容の出現を算出するための最小形の内容)、③文脈単位の決定(記録単位を性格づける際に吟味されるであろう最大形をとっ

た内容)、④意味内容の類似性に従い分類し、その分類を忠実に反映したカテゴリーネームをつける、⑤カテゴリーに分類された記録単位数を算出した。

2.2.2 研究結果及び考察

(1) 障害福祉施設種別にみた災害対応の困難とその対応・対処

分析対象である7施設のトランスクリプトを Berelson の内容分析法に基づき、意味内容の類似性ごとに分類した(表2)。その結果、入所施設、通所施設、相談支援事業のそれぞれ、33、49、22の記録単位、13、19、10のサブカテゴリーを抽出した。また、3種類の施設のサブカテゴリーを分類した結果、3施設で共通する3カテゴリー「医療・保健的ケアの対応」、「外部支援者の対応・活用」、「職員家族の安否確認」、2施設で共通する10カテゴリー「衣・食・住等の生活環境が未整備」、「スペース不足」、「受け入れ体制枠組みが未整備」、「利用者とその家族の安否確認」、「利用者の避難対応」、「学校の理解と協力」、「行政との連携」、「利用者家族への引き渡し」、「避難者の訪問と相談支援」、「ハード面の安全性」が抽出された。一方、1施設のみ抽出と、施設機能に特色が出たサブカテゴリーも分類された。

a) 入所施設における災害対応課題

施設種別にみた災害対応の内容については、まず、入所施設では、『受け入れ体制』に関する記録数が21(63.6%)と最も多く、サブカテゴリーをみると、「衣・食・住等の生活環境が未整備」に次いで「マンパワー不足」、「医療・保健

的ケアの対応」、「受け入れ体制枠組みが未構築」、「外部支援者の対応・活用」であった。

前述の通り、入所施設では、平時より利用者の宿泊機能を有するため、災害時には福祉避難所の指定の有無にかかわらず、地域住民の避難所としての役割を期待される。実際に、地域住民を受け入れて後しばらくして福祉避難所に後付け指定した事例もある。食事、入浴、就寝設備はあるものの、利用者および宿直職員用であり、多くの一般避難者に開放・分配することは想定されておらず、利用者の心身の安定を保ったままいかに資源や機能を共有するかが大きな課題となっている。また、地域住民の受け入れと合わせて、解消時期(いつまで受け入れるか)の判断が難しいことも課題として挙げられている。このように人的・物的資源に限られる中で、災害後に心身不安定になる重度心身障害者をケアしつつ、地域住民の受け入れ体制を検討しておくことが重要である。

b) 通所施設における災害対応課題

次に、通所施設については、『利用者サービス』に関する記録数が33(67.3%)と最も多く、サブカテゴリーをみると、「一部サービスの事業継続」に次いで「利用者家族への引渡し」、「施設間の連携」、さらには「利用者とその家族の安否確認」、「利用者の避難対応」とそれを支えるための「学校の理解と協力」、「利用者家族の協力」が抽出された。

通所施設では、先の入所施設のような利用者宿泊のための食事(厨房、栄養士等の資源)、入浴、就寝設備を十分に備え